

確かにあった、水がない時代

通

水以前、水源に恵まれない集落では、農業用水を確保するため、遠くのため池まで、水おけを担いで水をくみに行きました。牛車がある農家は牛車に乗せて水を運ぶことができましたが、牛車が無い農

家では人力で運ぶしかなく、大変な重労働でした。水が満足に確保できない

ため、畑ではムギやサツマイモぐらしか収穫できず、大きな収入になりませんでした。このため、主に女性が農作業を行い、男性

はより現金収入の得やすい地引網などの漁業をして生活を支えていました。

天候によっては干ばつになることも多く、せっかく育てた作物も枯れてしまうなど、水にかかる苦労は大変なものでした。



1



3



2



4

1/ため池で水をくむ風景。1日何回も畑に水を運ぶのが農作業の大きな負担であった

2/牛車を使って水を運ぶ様子。牛は農業に欠かせない貴重な存在であった

3/昭和30年代のサツマイモのつるさし風景(個人提供)

4/昭和30年代ムギの収穫の様子(個人提供)

「そりゃわからんわなあ、水の苦労なんて」

赤羽根町の宮田誠一郎さん(90歳)に豊川用水通水前後の農業について伺いました

Q：通水以前はどのような農業でしたか？

A：障子にビニール貼って、菊を作ったね。昭和30年代には木造温室でトマトを作り始めたけど、雨水頼みで多くは作れなんだね。



Q：通水後の農業はどう変わりました？

A：用水のおかげで水が無くなって心配はなくなったから、水をたくさん使う施設園芸を大きくできたね。エンドウやトマト、メロンなどいろいろ作ったよ。井戸水だったときはみんなで使うとすぐになくなってしまったけど、いつでも同じ圧力で出るのはありがたかったね。

Q：若い農業者に伝えたいこと

A：まあ何にも言わん。水があるのが当たり前になっとなるからなあ。ひねったら出るもんね。思い出せって言っても分からんから仕方ないわなあ、水の苦労なんて。ただ、今も昔も頭使って前へ前へ進むだけだわなあ。